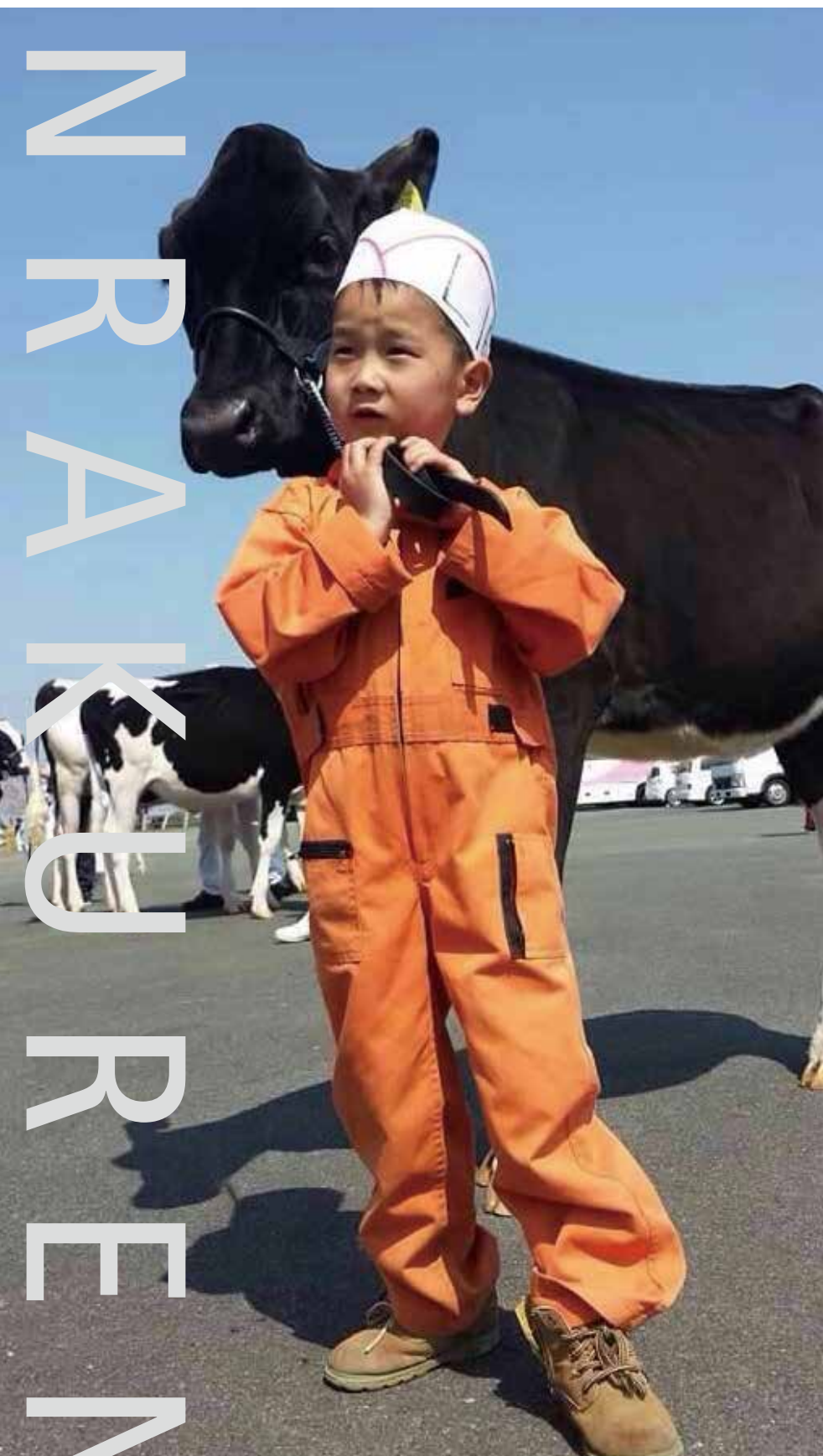


全酪連会報 7

2017 JUL No.622



酪農とのかけはし
谷 峰人さん

父の日に^{ちち}牛乳を贈ろう!

第44回 らくのうこどもギャラリー
入賞作品紹介

購買部だより
カーフトップ50周年企画
カーフトップ：インタビュー

酪農トピックス
千葉県「ミルクフェスティバル2017」
開催(東京)ほか

酪政連活動報告
日本酪農見て歩紀
山形県白鷹町 大木牧場



全国酪農業協同組合連合会



カーフトップ50周年企画

カーフトップ： インタビュー

北海道阿寒郡鶴居村 / 植田牧場 植田紘史さん

取材先 牧場紹介

2017年3月下旬、カーフトップインタビューとして北海道阿寒郡鶴居村幌呂地区の植田牧場に取材に伺いました。今回、御協力して下さいしたのは牧場主である植田紘史さん、お父様の晃雄さん、お母様の喜恵子さんです。

植田牧場は親子3代にわたり、酪農経営をされており、全日本の共進会でも優秀な成績を残されております。

昭和元年に紘史さんの祖父にあたる植田薫明さんが入植し、馬産を主とした畜産経営から始まりました。昭和35年から酪農経営に転換し、昭和39年には薫明さんから晃雄さんへ、平成13年には晃雄さんの御子息



▲ 右から植田喜恵子さん、晃雄さん、紘史さん

である紘史さんへ酪農経営が引き継がれました。平成16年には牛舎を新築し、120頭規模のフリーストールと8頭ダブルのヘリンボーンパーラーを導入しております。

現在は、成牛を150頭（うち搾乳牛は120頭）、育成牛は140頭を自家育成しております。

牛の管理は、紘史さんを中心に従業員2人、研修生2人、パート1人で行っております。

カーフトップを使用した きっかけはなんですか？

晃雄さん

「カーフトップが供給される以前、幌呂地区は、農耕馬の生産が盛んで、牛より馬が多かったです。しかし、昭和30年代後半で戦争が終結したこと、機械が導入されはじめたことにより、馬が必要ではなくなったため、牛を飼う人が多くなり、現在の規模まで酪農経営の拡大を続けてきました。しかし、規模が大きくなるにつれ、二頭一頭の子牛の管理が上手いかなくなっていました。

昔は子牛を、脱脂乳や生乳、飼料用の脱脂粉乳などで育てていましたが、育つ牛と育たない牛との差が極



▲ 個別に管理できる哺育施設は、ダクトファンの設置で換気もばっちり！

端で、当時の釧路管内の共進会では、毎回幌呂地区の牛は最下位ばかりでした。

そのため「哺育牛から大切に育てないと良い牛はできない」と思い、カーフトップを使い始めました。これは私のところだけでなく周りの酪農家も同じだったと思います。カーフトップだけが理由ではないとは思いますが、カーフトップが供給され、牛の管理に皆が真剣に取り組むようになりました。おかげで、共進会では幌呂地区の牛が上位に入ることが多くなったと思います。

釧路管内でも一番初めに使い始めたのが幌呂地区で、若い人から率先して使っていたなど印象に残っています。」

当時、カーフトップを使用し 実感したことはなんですか？

晃雄さん

「肉付けの調整をしたりする時に

も使用できるし、下痢はないことはなかったけど、すぐに治りました。発育も良いし、育たない牛がないというところが一番良かったです。作業的にも、お湯に量った粉を入れるだけだったからやりやすかった。ただ、今はいいけど、昔は溶けが悪かったかな。」

当時のカーフトップを給与する際のポイントはなんでしたか？

喜恵子さん

「生まれてから、初乳を飲ませて、4日目からカーフトップを与えていましたが、急に切り替えるとうとうして下痢を起こしてしまっていたので、初乳に少量お湯を入れてカーフトップを加えて混ぜて、与えていました。それを1週間でいい、慣れさせてから給与方法に沿って与えましたね。」

脱脂乳を与えていた時は温めなければならなかったから、手間でした。



▲現在は、カーフトップEXブラックを使って頂いております！

一番苦労したのはお湯の温度です。冬はバケツにお湯を入れ替えたらず、一気に温度が下がる

ので、46度に仕上げてから行っていました。少しでも温度が下がれば、下痢の原因になりますし、下痢すると後の成長に関わりますから。おかげで今ではお湯に指を入れるだけで温度が何度なのかわかります（笑）」

共進会で活躍された牛の代用乳はカーフトップでしたか？

喜恵子さん

「カーフトップを与えていましたよ（笑）。もちろん共進会で勝つ牛にとって血統は大事ですが、一番大事なのは、基本を忠実にやること。それが大前提ですね。」

※第9回全日本ホルスタイン共進会経産名譽賞受賞など様々な共進会で受賞されております。



▲カーフトップEXブラックで育った育成牛



▶共進会で数々の賞を受賞されております！

哺育期の管理について、重要なポイントを教えてください。

紘史さん

「観察、だと思えます。カーフトップの量や、お湯の温度というのは誰が行っても同じですが、体調の悪い子牛の、ちょっとした変化に少しでも早く気づけるかどうか、もっとも大切なことだと思います。」

これは、日々子牛に接する人の気持ち次第なので、だれがやっても同じというわけにはいかず、一番難しい問題です。」



▲個別ペンの、取り外せる仕切りを活用したベアハッチ

現在までカーフトップシリーズを使い続けている理由はなんですか。

紘史さん

「変えたら飲まなくなるかもしれないし、特別変えたい理由もないので、使い続けています。ただ、これから作る製品にも手を抜かないでほしい。」

品質を下げないこと、価格があ

まり高くないこと、安定供給を、これからも継続してほしいね。」



▲フリーストールでTMRを食べる搾乳牛

全酪連に今後求めることは何かありますか？

紘史さん

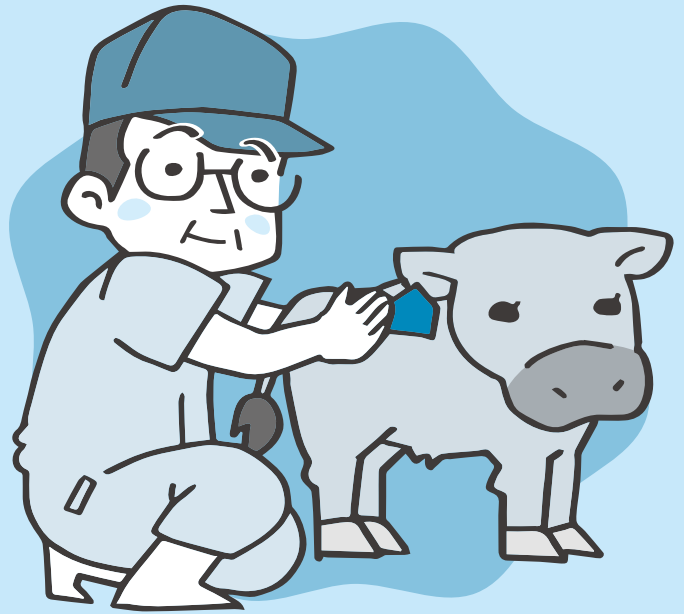
「農協に対してもそうだけど、安心感」を求めたい。酪農家が抱える問題は幅広く、わからないことだらけで、自信が持てない時もある。そこで、酪農家がつらあゆるジャンルの悩みにまともに対応できる組織に色々アドバイスをして欲しい。」

終わりに

今回、植田牧場を取材させて頂き、印象に残った言葉があります。

「日本全体の酪農、牛乳の需給を考えて行動できるのは全酪連だけ。」私達は酪農家の方々は勿論ですが、地域だけでなく、日本全体の酪農を背負い、業界を盛り上げていかなければならないと、改めて実感させられた一言でした。

酪農との かけはし



第8回 生産獣医療を行うNOSAI連宮崎

酪農家のいいところに ピントを合わせて

～酪農家に寄り添って気づく酪農の力～

谷 峰人さん

年 齢:63歳

お住まい:宮崎県宮崎市

略 歴:獣医師として千葉県や熊本県で活躍後、東海大学農学部での勤務を経て現在、宮崎県内にて若手獣医師とともに活躍中。

その職業に携わるようになった
理由・現在までの道のり

最初は庭師も選択肢に入れていましたが、最終的にやはり獣医師をやりたいと思い、現在の道を選択しました。庭師になっていたら今は日本にいなかったかもしれませんね。小動物か大動物かで

は迷わず大動物を選択しました。

最初に赴いた地は酪



▲ 谷峰人さん

農が始まった地とされる千葉県でした。気候の関係から年中草が豊富なこの土地で、渡辺高俊先生にエサと繁殖の関係について学びました。牛は草があると種がつくと改めて感じました。

その後熊本に移り開業20年、56歳で東海大学農学部へ赴任し、定年後宮崎の地で現職に携わっています。

谷先生が働くうえで考えていることはなんですか？

「どんな仕事も現役時代は30年」、私も獣医師をやってきてこれが、仕事

をやっていく

中でとても大

切なことだと

思いました。

最初の10年は

がむしやりに

頑張ること。

そうするうち

に自分の中で



▲ デスクで作業中

考えが整理されていきます。次の10年は自分なりのスタイルで自分なりのカラーが出てきます。もっとも活躍するのはこの10年ではないでしょうか。では、最後の10年はどういう10

年だと思えますか？それは跡継ぎを考える10年です。ここがうまくいかないう酪農家の方が多いように思います。特に酪農2代目から3代目への引継ぎが難しいようです。初代の酪農を引き継ぎ、改良し、規模拡大を成し遂げたものの跡継ぎの問題から、酪農を選択される酪農家も多いのではないのでしょうか。非常に残念だなと思います。2代目が酪農を継ぐのが遅くなると後代へどう伝えていくか、その準備をする時間が少なくなってしまうといったパターンです。規模拡大も大事ですが、10年先に引退を考えるのであれば、

谷 峰人さんの 1日のタイムスケジュール

5:00 ▶	起 床
8:00 ▶	出 勤 (勤務開始までよく考え事を されている)
8:30 ▶	巡回開始
12:00 ▶	休 息
13:00 ▶	再び巡回
17:00 ▶	帰 宅 (一番に出勤し、一番に帰る!)

全国の酪農家に 一言!

「自分のいいところをアピールしていきま
しょう! 自分で見つけれないときは誰か
に見つけてもらいましょう。」

他の酪農家さんがあなたのところを視察し
たいと思ってもらえるようなアピールポイ
ントを見つけていってください。

谷先生から見た酪農の魅力とは?

酪農とは科学に裏付けされた分野
で、牛は手をかければかけるだけ返
してくれます。また、土地柄に合わ
せて様々な酪農の種類が存在します。
たとえば北海道の技術を宮崎の地で

後代継承にも考えを巡らせる必要が
ありますね。私の場合は、子どもは
好きな仕事をすればいいと思いまし
たが、酪農家さんは大変だと思いま
す。ただ、子どもさんが酪農に興味
のない場合は、無理にする必要はない
と思います。これからはアメリカのよ
うにやる気のある新規参入者に農場
全体を売買することができるようにな
ると、いいかとも思います。

▼ 阿蘇の放牧地 ストレスフリー



▲ ミルクの消化具合を超音波で観察

実行しようとしてもそのままでは導
入することはできません。規模や気
候など様々なちがひがあります。長
崎の講習会に行ったときには、坂の多
い長崎の地形にうまく展開する牛舎
を見て感銘を受けました。
私は酪農をささえる立場ですので
実際に経験をしたことはありません
が、しっかりと勉強し、実行すること

今後の酪農に必要なこと

が出来ればとても素晴らしい未来が
待っている仕事だと思っています。酪農は
選抜されたエリート集団ですからね。
今後の酪農に必要なことは「経
営力」です。皆さんは、農業機械等
の手入れをきちんと行っていますか?
いまだに耐用年数が来る前に使用が
できなくなってしまう機械や牛舎が
数多く存在します。金額も大きいこ
れらのものを無駄遣いしないよう心
掛けていくことが経営安定につなが
ります。牛にしてもそうで、疾病や
廃用になってしまふ牛をいかに減らし
ていくか、こういった面での取り組み
がとても重要になってきます。

▼ 飼料給与について語る



▲ 酪農家と若い獣医師とともに繁殖検診

もう一つ大切なことが、余裕を持っ
て酪農を楽しみながら行うこと。バ
タバタしながら搾乳を行っているとそれ
んか?人間がバタバタしているとそれ
は牛へのストレスに繋がってしまうま
す。ゆつくりと、コーヒーでも飲みな
がら淡々とした経営を行うためには
何をしたらいいか考えてみましょう。

父の日に牛乳^{ちち}を贈ろう!



今年も全国各地キャンペーンを実施!

全国酪農青年女性会議による「父の日に牛乳^{ちち}を贈ろう! キャンペーン」が、今年も全国各地で開催されました。今年は4月末～父の日である6月18日(日)を中心に、地域の特色に合わせた活動を全国で展開しました。

今月号では、各地で実施されたキャンペーンの一部をご紹介します。

北海道酪農青年女性会議は、5月29日(月)及び31日(水)の2日間、札幌市と千歳市の保育園・幼稚園を訪問しました。今年も牛と牛乳に関するクイズをおこない、答えに合わせて、牛の体の仕組みや牛乳ができるまでをイラストや実際の子牛用哺乳瓶、サイレージ、牛乳パックなどを使ってわかりやすく説明しました。「牛が食べているのはおにぎりかな、それとも草かな?」という問題ではほとんどの園児が「草!」と答えられましたが、実際のサイレージのにおいを嗅ぐととても驚いた表

情をしていました。また、園児から「牛乳はどうして美味しいの?」という嬉しい質問があり、参加した委員も思わず笑顔になりました。

5月31日(水)に訪れた住吉保育園では、子どもたちによる「うしうしサンバ」が披露され、先生も参加した委員も一緒になって踊りました。これからも牛乳をたくさん飲んで家族みんなが健康に過ごせるように、牛のはなこちゃんから牛乳とミルメークをプレゼントしました。

北海道



▲ 今年も大人気のはなこちゃん



▲ うしうしサンバ



▲ 今は機械でお乳を搾ります



▲ 牛さんが使うのはどっちの哺乳瓶かな?



▲ 牛のごはんにびっくり

岩手

●8020健康フェスタで父乳キャンペーン

岩中酪青年婦人会議は、6月4日(日)に岩手県歯科医師会主催の「第12回8020健康ファスタ」のイベント内で父の日に乳を贈ろうキャンペーンを行いました。当日は、休日だったこともあり多くの親子連れが来場し、牛乳・リーフレット等を昨年よりも100セット多く準備しましたが、イベント終了前に配布が終わるほどの盛況でした。



▼ ふれあい牧場



▲ 搾乳体験

●愛情館で牛乳乳製品のPR

福島県酪農青年研究連盟は、6月18日(日)、JA農産物直売所「愛情館」(郡山市)にて、県内の農畜産物をPRするイベント内で父乳キャンペーンを行いました。小学生以下を対象に牛乳早飲み大会、乳牛の乳しぼり体験会、子牛のふれあい体験などが行われ、搾乳体験では、子ども達は日頃見ることのできない大きな牛に緊張した様子で近づいていましたが、乳搾りが始まるとみんな真剣な表情で搾乳をしていました。「上手に搾れたね。」と声をかけられると、みんな嬉しそうな表情でうなずいていました。来場者には、先着でミルメークや酪農に関するパンフレットが配布され、家族連れを中心としたたくさんのお客様で賑わいました。

福島

山形

●ミルクランドモウモウフェスティバルで消費者交流

6月25日(日)、山形県酪農青年婦人会議は、山形県酪置賜支所特設会場で行われたミルクランドモウモウフェスティバルにて、消費者交流を行いました。会場では、福引やふわふわ遊具、ロールにお絵かきなどが行われ、来場者にはミルメークを配布し、「牛乳をたくさん飲んでね」と呼びかけていました。



▲ お楽しみ抽選会

▼ ロールにお絵かき



●佐渡ホルスタイン改良同志会・佐渡農協

6月18日(日)佐渡市の「道の駅 芸能とトキの里」で開催された(株)佐渡乳業主催の「佐渡産牛乳のまんかさ祭り」の会場において、佐渡ホルスタイン改良同志会・佐渡農協は、子牛を展示し哺乳体験を実施するとともに、ミルメークを配布して佐渡産牛乳のPR活動を展開しました。お祭りでは(株)佐渡乳業のトキ環境整備基金贈呈式も行われました。

※(株)佐渡乳業は「父の日キャンペーン」を応援しています。
<http://sadonyugyo.com/campaign/campaign.html>

新潟

茨城

茨城県酪農青年女性会議は、4月29日(土)にイオンタウン水戸南において開催された「いばキャラ祭り2017」にうしさんの着ぐるみで参加し、キャンペーン展開しました。当日は父乳キャンペーンポスターを展示し、入場者にはミルメークを配布して、牛乳消費拡大のPR活動を行いました。



▲ 会場の様子



▲ 父に美味しい牛乳を飲ませてください。

埼玉

埼玉酪農業協同組合は、5月3日(水)に開催された埼玉県農林公社の「サクラソウまつり」のイベントに参加し、『父の日に牛乳を贈ろう!』のPR活動を当婦人部が中心となって行いました。来客300名にメッセージカード付ミルメーク・グッズ等を配布し、牛乳飲用の効能などを紹介し消費向上に資する宣伝活動を行いました。

群馬

群馬県酪農青年女性会議連絡協議会(群馬中央酪農協)は、前橋市の二之宮保育園(園児234名)を訪問し、キャンペーンツールの似顔絵用紙、ミルメークを届けて活動しました。保育園では6月16日(金)ミルメークを園児一人一人に声をかけながら配布し、似顔絵も描きました。



赤城酪連は、5月20日(土)21日(日)の両日、道の駅「ふじみ」内に在る農地組合法人 風ラインふじみの「風ライン祭り」に参加し、県内産牛乳の試飲とミルメークの配布を行って、牛乳消費拡大のPR活動を展開しました。



▲▶ 風ラインまつり

栃木県酪農青年女性会議は、6月8日(木)に県知事・農政部長・畜産振興課を表敬訪問し、県内産牛乳のPRと消費拡大の要請を行いました。



▲ 栃木県知事を訪問

6月4日(日)に「道の駅 那須高原友愛の森」「道の駅 明治の森黒磯」「道の駅 那須の与一大田原」「アグリパル塩原」「道の駅 しもつけ」「道の駅 思川」「たいらや 足利店」の県内7ヶ所で、一斉に父乳キャンペーンのPR活動を展開しました。ミルメーク・リーフレットの配布や場所によっては牛乳の試飲会も行いました。

栃木



▶ 活動の様子

愛知

●愛知県父の日メッセージコンテスト開催

愛知県酪農農業協同組合青年女性部（岩田周部長）は、今年で11回目となる、子供からお父さんへのメッセージコンテストを開催しました。県内583通の応募があり、優秀作品に選ばれた15家族に乳製品を贈呈、そのうち4家族には6月

17日(土)に部員が直接訪問し、子供からお父さんへのメッセージ朗読のあと牛乳で乾杯を行い、お父さんへの感謝の気持ちとともに、もっと牛乳を飲んでいただくようアピールしました。



三重



●四日市市長へ牛乳の贈呈

三重県酪農女性会議（堀山静代委員長）は、6月5日(月)に四日市市役所を訪れ、森市長に牛乳を贈呈しました。また、三重県酪農女性会議より牛乳の絵本を贈呈し、市内の幼稚園に置いてもらうことを了承いただきました。

岐阜

●岐阜県知事へ牛乳を贈呈

岐阜県酪農青年女性会議（宮垣俊介委員長）は、6月15日(木)に古田県知事への牛乳贈呈式を行い、県内の酪農情勢について意見交換を行いました。



●東海農政局長へ牛乳贈呈

中部酪農青年女性会議（小笠原和美委員長）は、6月14日(水)に東海農政局を訪れ、田辺義貴東海農政局長に牛乳を贈呈し、牛乳の消費拡大のPRを行いました。

その後、小平均東海農政局次長の発声により牛乳で乾杯を行い、7月13日(木)～14日(金)開催の全国大会、本キャンペーンの管内活動状況、本年度の当会議の活動計画、酪農情勢等について情報交換を行いました。



東海

●伊原木県知事へ牛乳贈呈、PR活動

5月30日(火)、おかやま酪農業協同組合では青年部・女性部が中心となり、岡山県庁を訪問し、伊原木県知事に「安全でおいしい牛乳を届けるため努力して参ります。これからもご支援を宜しくお願いします」と県産牛乳と乳製品を贈呈しました。



岡山

その後、岡山駅前にて、ミルメーカーアソートを配布し、「牛乳は熱中症対策に効果があるといわれています。牛乳を飲んで乗り切りましょう！」など声を掛けながら、消費者の方へ牛乳をPRしました。

6月13日(火)、JAえひめ女性組織協議会酪農部会(岡田部会長)、愛媛県酪農後継者部会(山本会長)、愛媛県酪農業協同組合連合会及び四国乳業株式会社の関係者ら計8名で愛媛県庁を訪問、「愛媛県のお父さん」の代表として上甲俊史副知事に牛乳・乳製品を贈呈しました。生産者を代表して岡田部会長が「私たち愛媛の酪農家が一生懸命生産した生乳から生まれた牛乳・乳製品です。本日は愛媛県のお父さんの代表として副知事にプレゼントいたします。」と県産品を贈呈しました。



愛媛

さらに山本部会長より「今年も県下68の小学校で食育教室を行い、子供たちに酪農の素晴らしさとおいしい県産牛乳の魅力を伝えます。」と酪農業や県産牛乳をPRする活動を紹介しました。

●山口県酪農青年女性会議

6月1日(木)が牛乳の日ということで、この4月から新しく代わられた前田晋太郎下関市長へ牛乳の贈呈に伺いました。下関市なので松永毅委員長ほか下関市地区の酪農家さん参加してもらいました。市長と酪農家さんが同年代だったこともあり、とても話しやすい感じでした。市長にもしっかりと酪農家の現状や沢山の牛乳PR活動をしていることをアピールできたと思います。

6月11日(日)には、下関市豊田町の道の駅「蛸街道西ノ市」にて牛乳月間イベント「MILK ● JAPAN in しものせき」を開催しました。山口県酪農乳業協会とも協力しながら消費拡大活動として、牛乳の試飲、搾乳体験コーナー、パンフレットなどの配布を行い、来場者に県産牛乳と酪農をPRしました。当日の天気は雨予

報だったのですがイベント関係者の日頃の行ないが良くおかげで、快晴とはいきませんが雨も降らずにイベントを終えることが出来ました。牛乳試飲とピーチヨーグルト試飲は好評で、搾乳体験コーナーでは子供たちが酪農家に搾り方を教えてもらいながら楽しんでいました。特に着ぐるみは子供達に人気で中に入っている人はとても大変だったと思います。



山口

広島

広酪メンバーズクラブは、広島県牛乳普及協会、広酪、ひろらく女性グループ連絡協議会と連携し、6月の「牛乳月間」に合わせて広島県庁を訪れ、湯崎県知事、下崎県教育長、上仲農林水産局長らを表敬訪問し、牛乳・乳製品の機能性のアピール等の活動を行いました。

▼ 県知事との集合写真



▲ 下崎教育長と砂子委員長

砂子委員長は、来年7月に広島で開催予定の全国酪農青年女性酪農発表大会について触れ、「全国各地から酪友など600名の来場を予定しており、広島県の魅力をPRする絶好の機会になるので、県をあげて協力をお願いします。」要請されました。

6月4日(日)、北広島町壬生地区にて古くからある豊作祈願で行われているユネスコ無形文化財「壬生の花田植え」の開催に併せ、その商店街にて、牛乳120本・ミルメーク150個無料配布にて、牛乳普及推進を行いました。

また、その配布会場では、生後1ヶ月の乳牛の子牛を展示し、来場者にふれあってもらいました。



◀ 牛乳無料配布

佐賀

佐賀県酪農婦人部連絡協議会JAグループ佐賀畜産振興協議会は6月1日(休)牛乳の日に、就学前の園児に栄養豊富な牛乳を飲んで健康で元気になってもらおうと、みどりヶ丘保育園園児へ牛乳を贈りました。また、6日(休)に北部保育園、9日(金)に須古保育園の3ヶ所に贈呈しました。園児の保護者向けにはリーフレット等を配布し、多様な牛乳の効能についてPRを行いました。



▲ 佐賀市富士町「北部保育園」で園児とともに



▶ 鳥栖市「みどりヶ丘保育園」にて牛乳贈呈

大分県酪農青年女性会議は、6月11日(日)に大分市にある商業施設「パークプレイス大分」にて、普段接する機会の少ない牛と直接ふれあってもらおうと、搾乳体験と子牛ふれあい体験を開催致しました。搾乳体験の整理券は予定枚数があったという間に無くなり、子牛ふれあい体験も家族連れの姿が途絶えること無く、消費者の皆さんの興味深さがうかがえました。

搾乳体験の後には、牛乳が製品になるまでのリーフレットや、乳和食のメニューなども配布し、酪農家と消費者が直接会話し、牛乳をPRできる機会を設けることができました。

また、当日は地元のテレビ局も2局取材に来ていただき、当日の夕方のニュースに消費拡大イベントとして取り上げていただきました。



▶ 搾乳体験前の、乳の搾り方の説明を受ける参加者の皆様



▲ 搾乳体験をする子供たち



▲ 子牛たちは子供に大人気

ふくおか県酪農青年女性会議は6月9日(金)に、よらん野(JA直売所)、6月18日(日)にイオン甘木店、及び石橋ファームランドラッテビアンコにて牛乳の試飲、グッズの配布等を実施しました。また、6月5日(月)に朝倉市長、6月8日(休)には筑前町長へ牛乳の贈呈、試飲を実施し、牛乳のPRをしました。

▼ イオン甘木店にて



▶ 筑前町長へ牛乳贈呈・試飲



◀ 石橋ファームランドラッテビアンコにて

福岡

大分

第44回

らくのう こどもギャラリー

入賞作品紹介

特選

「パーラーでリラックス」

美祢市立秋吉小学校(西日本・山口)5年

土山 希望



複雑な仕組みのパーラーや4頭の牛さんを確かなデッサン力で描いています。真っ直ぐ前を向く牛さんや隣を横目で気にしている牛さんなどをよく観察していて、表現にリアリティがあります。細部まで丁寧に描きこんだ完成度の高い傑作です。

●全体の作品について

今年も「第44回らくのうこどもギャラリー」に多数応募いただきました。北は北海道から南は沖縄まで応募作品720点の中から12点を選ばさせていただきました。様々な傾向の作品が揃っていました。標語の入ったものやポスターのようなデザイン重視の作品もある中、今回はより子供らしいのびのびとした自由な絵画を選出しました。

特選の土山希望さんは、昨年の入選1に選ばれていますが、今年はデッサン力も一段と高くなり、より表現力が増した魅力的な作品になり、見事特選となりました。入選1の喜多小雪さんの作品は、牛の顔や体のかわいらしさがじわじわと心に響いてきます。入選2の蒲野かずきさんの作品は、動物を見て描いた実感が伝わって

る迫力のある絵に仕上がっています。入選3の高野凜さんの作品は、ピンクが画面を支配する色彩感覚あふれる個性的な絵だと思います。

今回の特選から秀作に至るまでのすべての作品は、各自の着眼点がしっかりと認められ、その眼差しのこだわりが表現に反映されています。一方で入選を逃したファイナリストの中には、同じ技法や表現方法を採用しているため、形式が先行してしまい個性が埋没してしまった作品も多く見受けられました。形式にとらわれない大胆で奔放な生命力ある作品を今後とも期待しています。最後になりましたが、こどもギャラリーに携わってくださいました酪農家はじめ関係者の皆様に深く感謝申し上げます。

宮島 径／写真家
(みやじま・けい)

1967年 長野県生まれ。
1991年 東京藝術大学美術学部芸術学科 卒業。
1993年 デーリマン写真部入社
1997年 フリーランス・カメラマンとなる。

個展：2002年 「surface」(PLACE M. 東京)
2006年 「世界のしくみ」featuring 麻里布栄
(PLACE M. 東京)
2010年 「日照時間／The Daylight Hours」
(ギャラリー蒼穹舎、東京)
2016年 「One Another」
(喫茶&ギャラリーウィリアムモリス、東京)

浅野 智／画家
(あさの・さとし)

1964年 神奈川県生まれ
1991年 東京藝術大学美術学部絵画科油画専攻 卒業
1993年 東京藝術大学大学院美術研究科絵画専攻(油画)
修士課程 修了
1997年 第5回 風の芸術展 ビエンナーレ
まくらざき 賞候補
2000年 第11回 関口芸術基金賞 優秀賞
2001年 第12回 関口芸術基金賞 大賞
その他 個展、グループ展多数
NPO法人withART 代表理事
千葉大学 非常勤講師

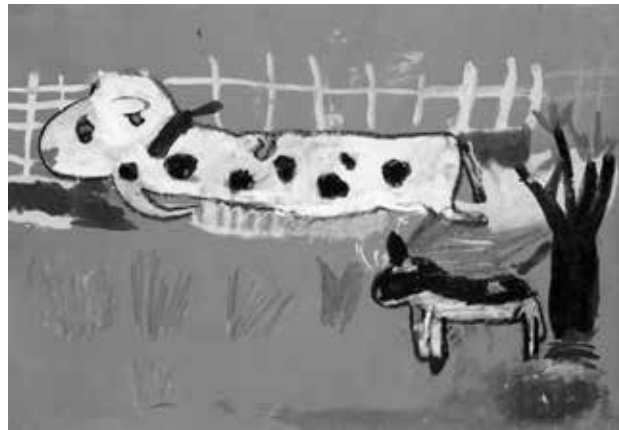


入選2

「ずっと口を開いている牛」

岡崎市立豊富小学校(中部・愛知)3年
蒲野 かずき

口を開けてこちらをじっと見つめる牛さんが、荒々しい筆致で描かれています。偶然に生じた黒色のにじみや濃淡が功を奏して、牛さんの表情に深みが表れ、力強い作品に仕上がっていると思います。



入選1

「かわいいうし」

練馬区立大泉東小学校(関甲信・東京)1年
喜多 小雪

緑色の紙にクレヨンと水彩を使って描いた作品。敷料の上に寝そべる牛さんと手前の子牛さんを描くタッチにはスピード感と力強さがあり、魅力的な画面に仕上がっています。



入選4

「なつかしい 思い出」

せたな町立馬場川小学校(北海道・久遠郡)6年
森垣 華

画面の手前から奥にわたる隅々まで、手の込んだ丁寧な作品に仕上がっています。筆のタッチに様々な変化がみられ、繊細で優しさが広がる絵です。地面の草を食べる牛さんの姿も良いです。



入選3

「ねむる牛」

那須塩原市立青木小学校(関甲信・栃木)4年
高野 凜

風に吹かれ舞い散っている花のなかで、しっぽをなびかせる「ねむる牛」さんは、映像を見ているようなゆったりとした時間を感じさせます。どこか夢の中にいるような不思議な情景が表現された物語性を感じさせる絵です。



秀作2

「じいじの牛舎だあ〜いすき」

津山市立新野小学校(西日本・岡山)3年

影山 みゆ

大好きなおじいさんの牛舎の様子を水彩画で描いた作品。大人しく繋がれた牛さんたちのそれぞれの表情をしっかりと描いています。牛舎の雰囲気が伝わる心に響く作品です。



秀作1

「牛にゆうを飲める幸せ」

郡山市立橘小学校(東北・福島)4年

鈴木 千陽

題名の「牛にゆうを飲める幸せ」を、差し伸べた四葉のクローバーに込めたメッセージ性のある素敵な作品。牛さんの毛並みや牧草を細やかなタッチで丁寧に表現しています。



ファミリー賞1

「沖縄の牛」

国頭村立安波小学校(九州・沖縄)6年

鈴木 さくら

せっせと牛さんの世話をする人たちと、くつろいでいる牛さんをよく観察して描いています。酪農家の日常を愛情豊かな眼差しで描いています。柵の直線を生かして画面をダイナミックに構成しています。

秀作3

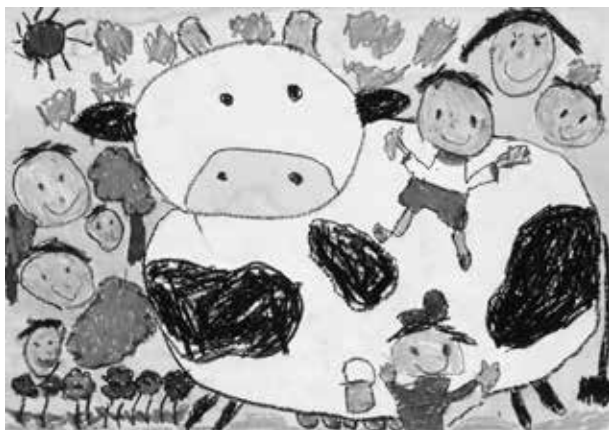


「ビックリ、モー」

坂戸市立大家小学校(関甲信・埼玉)3年

中村 晃太郎

牛さんのお顔をアップで描いた作品です。ここまで単純化された牛さんの絵を見たことはありません。見る人も「もうビックリ」させるインパクトの強い個性ある作品です。



あすなろ賞1

「牧場の風景」

多田野幼稚園(東北・福島)6歳

渡邊 陽翔

のびのびした線で大きな牛さんとそれを取り囲む人たちが笑顔で描かれています。いつまでも鑑賞したいと思わせるような、ほのぼのとする楽しい作品となりました。



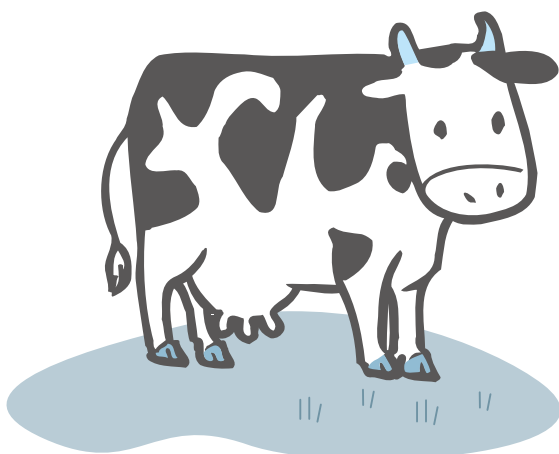
ファミリー賞2

「牛さんとえん足」

郡山市立東芳小学校(東北・福島)2年

矢吹 凜音

遠足で牧場に行った時の楽しかった思い出が絵から伝わってきます。牛さんと人とのふれあいの他にも、アリさんやハチさんやモグラさんなどが登場してにぎやかです。牧場で体験した出来事が描かれていて作品から清々しさを感じます。



あすなろ賞2

「動いている牛」

武内保育園(九州・佐賀)6歳

山口 陸斗

「動いている牛」と題された山口陸斗くんの作品は、体が顔であって、顔が体であるような牛さんがかわいらしいです。色やかたちを目で追うと画面にリズムや調和が感じられてくるのが不思議です。子供らしい無心さが現われていると思います。

日本酪農 見と歩 紀

No. 290

大木牧場
山形県白鷹町

良い乳質は
衛生的な生産現場から

地域の概要

今回訪問した大木牧場がある山形県白鷹町は県の南部に位置し、町を東西に分けるように最上川が流れ、東部は白鷹丘陵、西部は朝日山系に囲まれる自然豊かな地域です。春は桜、夏は紅花、秋は鮎、冬はウインタースポーツに蕎麦と四季折々の楽



▲ 自宅前では四季折々の花が咲き誇る

しみがあり、特に、県花である紅花は染料の原料などに加工され、生産量は全国シェア6割を超える全国随一の生産地です。町は「日本の紅をつくる町」をキャッチフレーズとして、紅花をはじめ、米沢牛、馬肉、深山焼の炭、最上川のみみじ鮎、ミニトマトなど様々な紅色の特産品に力を入れています。

当牧場が所属する山形県酪農業協同組合（原田陽一代代表理事組合長）は、酪農家戸数91戸、生乳出荷数量41,031t（平成28年度）となっています。

牧場の概要

大木牧場は、昭和30年ごろに義父の俊雄さんが乳牛1頭を飼育し始めたのがスタートです。現在経産牛44頭、育成牛10頭の牧場管理は、ご主

▲（左から）ご主人の光明さん、豊美さんご夫妻、両親の洋子さん、俊雄さん（前列左から）ひとみさん、はなちゃん、康博さん

山形県白鷹町



▲ 育成・乾乳に利用している旧牛舎

人の光明さん（58才）と長男の康博さん（30才）が作業全般を、奥さんの豊美さんは哺育を、義父の俊雄さんは堆肥運搬や畑の作業を、義母の洋子さんは畑作業や環境整理を中心に、それぞれ分担して行っています。

地元出身の光明さんは長女である豊美さんと知り合い、26才で結婚され大木牧場の一員となりました。

『それまでは牛に全く触ったことがなく、さっぱりわからない中で酪農に飛び込んだ状態でした。義父母と妻を師匠と仰ぎ、分からないなりに一生懸命覚えて、なんとかなんとか出来ていたような気がします。就農当時（昭和60年）の我が牧場は、5〜6頭ほどの小さく狭い牛舎が7棟継ぎ足して建てられていて、まるで迷路のようでした。当然バンクリーナーもなくボロ出しは一輪車、搾乳もバケットでしたから本当に作業が大変で、ヘルパーも敬遠するほどでした（笑）。その頃、義父からは組合の会合や勉強会へは積極的に出なさいと早いうちから勧められ、おかげで酪農仲間との付き合いも深まり、知識も徐々に増えていきました。平成元年にはかつての迷路牛舎の一部を育成・乾乳用に残し、現在の46頭の真つ直ぐな（！）繋ぎ牛舎に改造しました。』

経営のこだわり

『例えば規模拡大と言っても、土地、労働力、牛の確保など条件が整わなければ簡単に進められることではありませんが、生乳の品質向上は、日々気を付けることで対処でき乳代アップを狙えると考えています。特に体細胞数のチェックは、毎日行っています。PLEテスターを使って全乳房をチェック



▲ 堆肥舎

し、体細胞が高い牛を見つけ出します。毎日が検査と、常に意識していますよ。

私が所属する山形県酪農協では、独自に「マイスターミルカー認定」を行っています。乳脂肪率3・6%以上、無脂固形8・6%以上、細菌数5万未満、体細胞数20万未満と言う基準ですが、月3回の乳質検査を1年間36回連続して達成するとマイスターミルカーとして組合から認定されます。年間に2〜3人ほどしか認定されませんが、制度が始まった平成20年の最初の年に認定を受け、

平成27年にも2度目の認定を受けることができました。

また、組合では「山酪農場ハセツプ認証」も行っていますが、「良い乳質は衛生的な生産現場から」をモットーに、早くから積極的に参加しました。山酪農場ハセツプとは、ミルカーの清潔具合や処理室の清掃・消毒、車両消毒、伝染病の防疫対策など数十に渡る組合独自の検査ですが、その検査基準はとても厳しいもので、90点以上の農家には「ゴールド認証」が与えられます。我が家は、安心安全で良質なおいしい牛乳の生産を家族全員が日々心掛けて



▲ 昨年農業賞が授与されました



▲ 共同作業に用いるロールベラー

いたことから、平成25年から3年連続で取ることができました。高品質な生乳には付加金が上乗せされるので、経営にも好影響がありますし、励みになりますね。』

『自給飼料畑は、借地を含めてデントコーンが3.5ha、牧草が6ha、他に10年ほど前から4戸で組織している河原牧野組合で河川敷8haのオーチャードとチモシーの共同作業をやっています。また白鷹ワラ組合として20haほど稲ワラサイレージの調製もしています。それでも6〜7割程度の自給率で、購入粗

飼料も利用しながらの飼養管理ですけど。共同作業では、労働力の確保や機械の維持管理など結構大変なこともありますけど、コストダウンや地域の農地保全にも繋がりますし。

米や野菜の農家は、酪農家以上に高齢化が進むに伴い田畑が荒れ、耕作放棄地が目立ってきています。田畑を自給飼料畑として活用できるのは酪農しかありませんが、我々の所有している機械は大型化して入れないような土地もあります。土地の賃借の条件をもう少し緩和して、例えば山手は畜産農家が借り、川に近いところで田圃ができるように、うまくいことできるような施策が取れないかなと感じますね。』

3代目の誕生

『実は、息子には「酪農だけはあるな。俺の仕事は継がなくていいぞ」って言っていたんですよ。地域の行事、学校の役員などが回ってきても牛舎を離れられないし、自分のやりたいことを見つけて外で仕事をしてもいいぞと。実際、息子は卒業後には外に働きに出ました。しかし、5年ほど前に妻が腰を痛めて入院、義父母も高齢になり我が家の労働力

は一気にダウン。無理せず一人でできる程度に規模を縮小した矢先に、結婚したての息子が「俺、酪農やるぞ」って帰ってきてましてね。労働力と扶養家族が増えたのでまた増頭しなきゃって、その時は自家育成牛を手放してなくてよかったですよ。

息子が就農して5年経ちますが、私と同様、就農してからの酪農業なので今勉強中です。改築した牛舎も



▲ 対尻式の搾乳牛舎

30年近く経ち、パイプラインやバルククーラーなど設備の修繕更新時期になっているので、今は増頭よりも改修が必要です。当面、現状維持で回していければいいと思いますが、ここから先は息子の考え方ひとつです。』

終わりに

『家族がずっと健康で仲良くいられば、忙しい業種ですけどそれが一番いいのかなと。息子には「家業を継ぐな」なんて言いましたが、継いでくれてありがたいと思いますし、私を育ててくれたように息子の仲間たちが育ててくれるのかなって。ここ白鷹町は息子世代が結構多く、酪農の主産地としてまだまだ続くでしょう。』とおっしゃる光明さん。お孫さんまで、7人家族の大木牧場の、また、山形の酪農の発展を願ってやみません。

仙 台
支所発

「東北酪農専門団体協議会研修会」開催

去る6月7日(水)、仙台市内において東北酪農専門団体協議会（会長：宗像実福島県酪代表理事組合長）通常総会および研修会が、会員役職員25名参加の下、開催されました。

冒頭、宗像会長は『生乳生産は前年割れで推移しており、猛暑が予想される今夏以降、生乳逼迫が懸念される。酪農家の減少に歯止めをかけるべく、皆様とともに知恵を出し頑張っていきたい。』と挨拶しました。



▲ 宗像実会長

引き続き開催された研修会は、日本政策金融公庫の山崎政行氏を講師に迎え「酪農経営継承の課題と対応」と題して講演いただきました。

山崎氏は、『地域の生産力全体を引き継いでいくた

めには、一定の「数」の担い手が必要。新たな担い手の開拓、新規就農希望者の地域への受け入れを考えると、初期投資が比較的軽減できる第三者継承や、将来の資金調達等を鑑みた法人化での継承を考えてみるのも策。有形資産や、技術・ノウハウなどの無形資産の受け渡しは、移譲者と継承者の間で十分な併走期間を取ることで、安定した経営を維持しながら可能となる。』とし、さらに、『第三者継承は両者の問題にとどめず、「地域」の視点でとらえた双方への情報発信やマッチングなど地元関係機関による支援が必要である』と述べました。

参加者は、直面する問題に対して一層の取り組みの必要を感じたなどと感想を述べていました。（I.M）



▲ 講師の山崎氏

東 京
支所発

千葉県「ミルクフェスティバル2017」開催

6月3日(土)4日(日)の両日「北総花の丘公園」において、千葉県酪農業協同組合連合会と千葉県牛乳普及協会の主催による「ミルクフェスティバル2017」が、好天のもと盛大に開催されました。

メインステージでは小山浩子先生のやさしい“健康おやつ”などが紹介され、「食と販売ゾーン」では、小山先生のミルクドーナツ、牛乳・乳製品、ジェラート、焼肉など数々の販売・試飲・試食が行われていました。「お遊びゾーン」では、牧草ベッド、ロールボールラップ落書き、水鉄砲、竹馬、輪投げなどで、



▲ ポニーに乗って

子供たちもが賑やかに遊んでいました。この他、ロコモ度測定「健康&カルチャーゾーン」、酪農・牛乳の話など「学習ゾーン」、搾乳模擬体験やポニー・ロバ乗馬など「ふれあいゾーン」、牛乳パックで帽子、似顔絵、牧草運びなどの「体験ゾーン」とたくさんのゾーンが設けられ、猛暑とも言える天気の中、家族連れの人たちがほとんどでしたが、たくさんの人たちが来場していました。

手伝いに来られた酪農家の方々や県酪連職員の方々は、暑さの中でてんてこ舞いの状況でした。（I.T）



▲ 搾乳模擬体験

名古屋
支所発管内各地で「牛乳の日」「牛乳月間」の
イベント開催

「牛乳の日」「牛乳月間」のイベントが管内各地で行われました。

5月27日(土)には、岐阜県酪農農業協同組合連合会（馬瀬口弘志代表理事長）主催のキャンペーンが県内4か所で行われ、牛乳の試飲や、PRパンフレットとミルメークを配布しました。

6月1日(木)の「牛乳の日」当日は、愛知県酪農農業協同組合（杉浦弘泰代表理事組合長）によるキャンペーンが行われ、東海酪農農業協同組合連合会、愛知県牛乳普及協会、全酪連名古屋支所も参加し、名古屋駅前において、通行者にPRパンフレットとミルメークを7,000セット配布しました。（Y.K）



▲ 東海北陸道ひるがのSA
(岐阜県)



◀ 名古屋駅前



▶ 東海北陸道関SA
(岐阜県)

名古屋
支所発「愛知県酪農農業協同組合青年女性部
第51回通常総会」開催

6月19日(月)、愛知県岡崎市の「水月」において、愛知県酪農農業協同組合青年女性部（岩田周部長）の第51回通常総会が開催され、平成28年度事業報告、平成29年度事業計画などすべて議案について承認されました。

総会終了後は食事会が行われ、7月13日(木)～14日(金)に札幌市で開催する全国発表大会や、8月に行うバーベキュー大会など、今後の活動についての説明が行われました。（Y.K）



▲ 総会風景

▼ 新役員のみなさん



名古屋
支所発

「美濃酪連 2017酪農まつり」開催

6月3日(土)、美濃酪農農業協同組合連合会（朝日修代表理事会長）のひるがの北濃牛乳工場において「美濃酪連 2017酪農まつり」が開催されました。

今年も400名ほどの応募者の中から抽選で選ばれた150名が、午前の部と午後の部に分かれて招待され、工場見学、アイスづくり、ゲーム、牛乳乳製品の試飲試食、搾乳体験等のイベントを行いました。

美濃酪連の「ひるがの牛乳」は、地元では子供の頃から学校給食等で親しまれていることもあり、岐阜県内の参加者が多いとのことですが、中には愛知県など他県から参加された方もいたそうです。

参加者はご家族と一緒にイベントを楽しんだり、工場見学ではスタッフの説明に熱心に耳を傾けて質問をする姿が見られました。（Y.K）



▲ 会場入口



▲ 工場見学



▲ 工場入口



▲ 牛乳乳製品の試飲試食



▲ アイスづくり

大 阪
支所発「全酪連近畿中四国酪農団体協議会」
平成29年度研修会が開催される

去る6月15日(休)、全酪連近畿中四国酪農団体協議会(東山会長、会員数21)は、新大阪ワシントンホテルプラザにおいて、平成29年度研修会を開催しました。

今年は、講師に独立行政法人農畜産業振興機構の瀬島弘子調査情報部長を招き、「世界の乳業乳製品事情」を演題に、世界における最新の牛乳乳製品の生産状況とその輸出入や乳価などの統計・データなどに現地の農場や牛乳乳

製品のスーパーの陳列の写真などを織り込んだ内容で大変興味深い研修会となりました。

その後の質疑応答も活発に交わされ、世界のなかでの日本酪農についていろんな方面から考える



▲ 質疑応答風景

いい機会となりました。今後とも、国産の牛乳乳製品を消費者に届け続けることを使命とし、酪農家の利益を向上させ未来につながる組織づくりを目指していこう・いかねばと、参加者それぞれが再認識されたことと思います。(K.I)



▲ 講師の瀬島部長

大 阪
支所発「全酪連近畿中四国酪農団体協議会」
平成29年度(第32回)通常総会が開催される

去る6月15日(休)、全酪連近畿中四国酪農団体協議会(東山会長)は、新大阪ワシントンホテルプラザにおいて、平成29年度(第32回)通常総会を開催しました。

総会の前の役員会で1団体の加入および組織再編による2会員の脱退が承認されており、会員総数21

会員中19会員が出席(委任状出席含む)のもと、第1号議案から第5号議案について、慎重審議され全議案とも原案どおり承認されました。第

4号議案「規約、規則の改定について」は組織整備に

よる会員数の減少を踏まえ監事数を減らす等が承認されました。また、第5号議案「役員改選について」では、今年は役員改選期に当たり承認された理事の互選で東山会長の続投が決まりました。

当協議会の平成29年度の事業は、会員団体の組織強化を目的に、講演会等の研修会の開催、及び管内・管外視察研修の実施等の事業を実施することとなりました。(K.I)



▲ 続投が決まった東山会長



▲ 平成29年度通常総会

福岡
支所発九州生乳販売農業協同組合連合会主催！
「ハッピーミルクフェスタ2017」だよ！全員集合！

6月3日(土)、日光がさんさんと降り注ぎ、賑わう福岡市の中心街、天神の一角「三越ライオン広場」にて九州生乳販売農業協同組合連合会（尾形文清代表理事会長）主催の「九州 Love Milk Club presents FM福岡ハッピーミルクフェスタ2017」が今年も開催されました。

6月は国連食糧農業機関（FAO）により2001年に「世界牛乳の日」が提唱された牛乳月間でもあり、このイベントも、酪農に対する理解醸成と牛乳の消費拡大につなげることを目的として開催されました。

会場内ブースにおいては、親牛模型を使った搾乳体験、牛乳クイズ、牛乳の混ぜのみ試飲やステージでのショーなどの様々なコーナーが設けられ、会場は盛り上がりを見せていました。コーナーの1つで昨年も開催された「牛乳ヒゲコンテスト」では口に白いひげを



▲ 尾形会長によるトークショー



▲ 会場周辺にてリーフレット配布

蓄えた子供たちの笑顔に周囲から拍手がおこりました。また九州 Love Milk Club PRタイムにて尾形会長は「幸せでストレスなく育てられた牛から搾られる九州の牛乳はおいしいはずですし、そんなおいしい牛乳を飲むことで、みなさんにも幸せな気分になっていただきたい。」と消費者の方に呼び掛けられました。地元福岡の酪農家さんやふくおか県酪協職員など様々な人の想いのつまったこのイベントは今年も大成功で幕を閉じました。（U.T）



▲ 親牛模型の搾乳体験



▲ MILK・JAPAN クイズコーナー



▲ 牛乳ヒゲコンテスト

酪政連活動報告

日本酪農
政治連盟

平成 29 年 4 月～ 6 月

4/15

三役会を開催(於:酪政連事務所)

- ・加工原料乳生産者補給金制度改革のスキーム等について
- ・平成30年度酪農政策・予算確保について
- ・東京都議会選挙等について

を協議

5/17

自由民主党東北酪政会が開催される
(於:自由民主党本部 706号室)

- ・役員体制及び会則の変更について
- ・東北の酪農の現状について
- ・指定団体制度の見直しについて

が協議される

5/17

常任・中央合同委員会を開催
(於:参議院議員会館)

- ・指定団体制度改革・自由貿易交渉について
- ・平成30年度酪農政策・予算確保について

を協議

6/16

三役会を開催(於:酪政連事務所)

- ・畜安法改正に伴うスキームについて
- ・働き方改革60億円について
- ・平成30年度酪農政策・予算確保について
- ・役員選任規程について
- ・職員の採用について

を協議

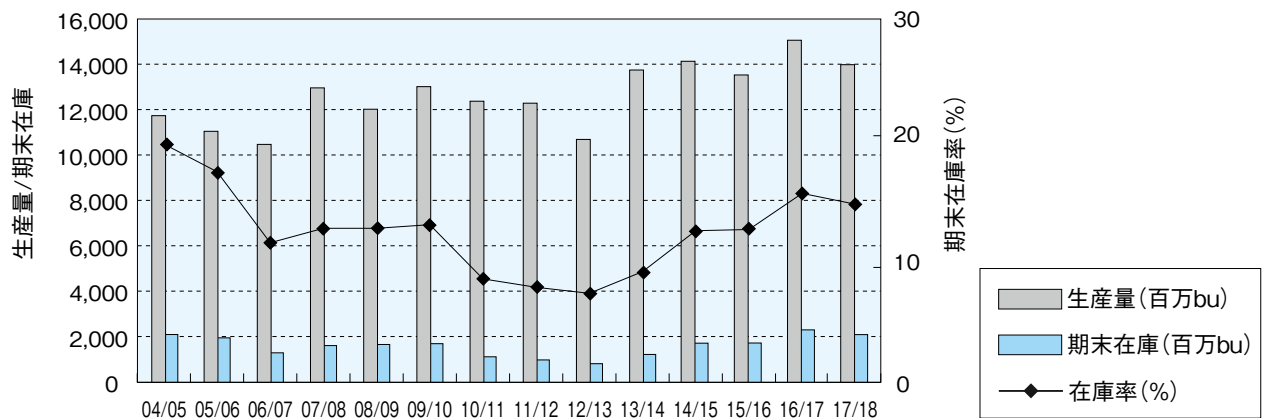


原料情勢

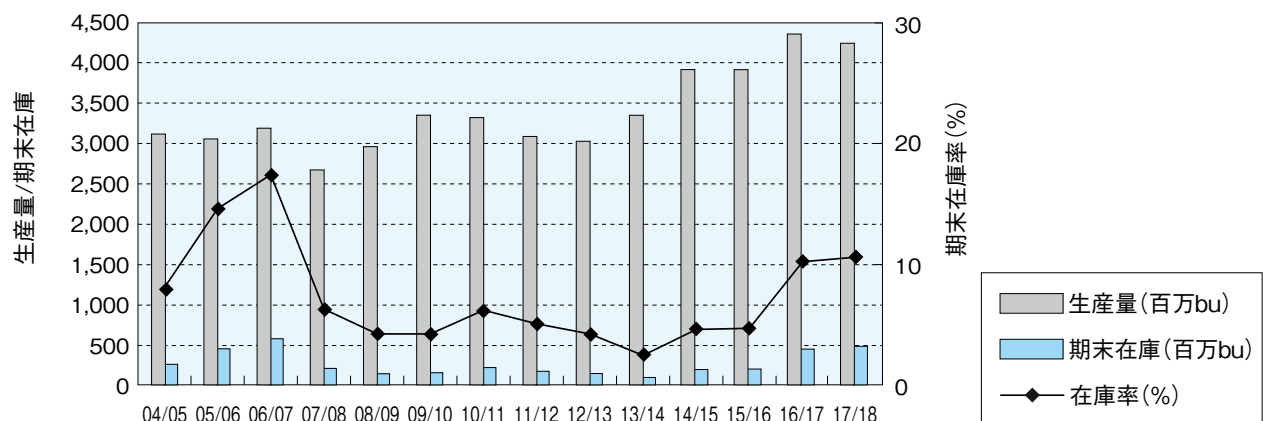
平成29年6月

6月9日発表 米国農務省 トウモロコシ 需給予想	【16/17年産】 作付面積94.0百万エーカー、単収174.6bu/エーカー、生産量151億4,800万bu、総需要量146億4,500万bu、期末在庫22億9,500万bu、在庫率15.7% 需要両面で変動なし。
	【17/18年産】 作付面積90.0百万エーカー、単収170.7bu/エーカー、生産量140億6,500万bu、総需要量143億bu、期末在庫21億1,000万bu、在庫率14.8% 需給両面で変動なし。
トウモロコシ 相場動向	6月18日時点でトウモロコシの作付は終了し、発芽進捗率も98%と例年並みとなっている。しかし、作柄は降雨過多の影響により、優良の割合が前年比で▲8%となっている。需給予想では期末在庫の下方修正が予想されていたが、生産量など据え置きであった。シカゴ市場は天候相場に入っており、下落材料よりも上昇材料に反応しやすい相場となっている。
6月9日発表 米国農務省 大豆需給予想	【17/18年産】 作付面積89.5百万エーカー、単収48bu/エーカー、生産量42億55百万bu、総需要量42億35百万bu、期末在庫4億95百万bu、在庫率11.7% 供給面が増加し、期末在庫は増加。
大豆粕相場動向	発表当日は、需給予想の期末在庫が市場予想をやや上回ったものの、米国中西部の高温乾燥予想を手掛かりに買われた。国内産大豆粕については、7-9月期には各搾油メーカーで定期修理が予定されているが、発生量は前年並みを見込んでいる。輸入品に関して、中心となる中国産は以前の高値の原料大豆の影響を受け搾油採算は悪いものの、搾油は順調に行われている。相場は需要面では中国国内からの需要は好調であるものの、国際相場に合わせる形で軟調に推移している。
糖種類	【一般フスマ】 牛用を中心に安定した需要があり、需給は適正に推移している。6月の小麦粉価格値上げによる挽砕量、ふすまの発生量への影響も限定的であったことから相場は横ばいで推移している。
	【グルテンフィード】 国内スターチメーカーでは夏場のスターチ、異性化糖需要に向けて稼働が順調であり、季節的に発生量も増加傾向にある。通常であれば需給が緩む時期であるが、昨秋からの在庫量や輸入品の価格問題から輸入数量が減少しており、需給は適正からやや締めつつある状況となっている。
海上運賃	海上運賃は、太平洋水域は中国国内鉄鉱石価格の下落により豪州産鉄鉱石輸出需要が鈍っている一方、大西洋水域では南米の中東向け穀物輸出需要の引き合いが増加してきている。原油価格下落の影響もあり、全体的にパナマックス市況は軟調に推移している。

米国産トウモロコシ生産量と期末在庫の推移



米国産大豆生産量と期末在庫の推移





輸入粗飼料の情勢

平成29年6月

北米コンテナ船 フレート	日本向けについては、4月からの海運アライアンスの再編により、新航路でのサービスがスタートしています。今のところ、大きな混乱はありませんが日本国外で積替え後に本邦へ到着する航路については、スケジュールの変更が散見され、若干遅延が出るケースが増えてきています。
ビートパルプ	【米国産】旧穀の生産量は期首の予想を大きく下回る減産となっており、およそ10万tにものぼります。このため、米国の供給余力は限定的となり、新穀が市場に出回る年末から年始までは日本国内の需給はタイト感が続きそうです。新穀の作付けは5月中旬で終了しています。作付面積は前年比微減となっていますが、種子の改良により単収は増えているため、ペレットの生産量はほぼ前年並みになると見込まれています。
アルファルファ	【ワシントン州】主産地コロンビアベースンでは春先から、冷涼な気候が続いたため、昨年よりも2週間ほど遅れの5月中旬から収穫が本格化しています。 収穫開始直後の5月11～12日および16日にコロンビアベースン全域で降雨があったものの、多くの生産農家は降雨被害を避けるために雨が止むのを待ってから収穫を開始しています。本格的な収穫が開始されて以降は、散発的に降雨は発生しているものの全体的には天候に恵まれており、今のところ、大きな降雨被害はほとんど発生していません。収穫の進捗は、刈り取りが60%程度、ベーリング作業は20%程度となっています。産地価格については、既報通り、カリフォルニア州南部の相場上昇を受けて、特に上級品において、昨年よりも強含みで取引が開始されると多くのサプライヤーが予想しております。
	【オレゴン州】南部クラマスフォールズにおいても、厳冬の影響を受け、アルファルファの生育は昨年比2週間程遅れていますが、収穫は例年並みの6月上旬頃から開始される見込みです。作付面積については輪作の影響でやや増加しているようです。中部クリスマスバレーも他地域と同様、冷涼な気候により生育は昨年よりも遅れており、例年並みの6月上旬～中旬頃から収穫が始まる見込みです。当地域の作付面積に大きな変動はなく、昨年並みとなっています。
	【カリフォルニア州】南部インペリアルバレーでは3番刈の収穫が終了し、4番刈の収穫が始まっています。17年産はシーズン開始当初は、米国乳価の回復を背景とした米国酪農家と中東（特にサウジアラビア）の積極的な買付により産地価格は上昇しました。しかしながら、その後3月以降の米国乳価は再び低調に推移しはじめたため、米国内の酪農家のアルファルファの需要は弱まりつつあります。 現在の産地価格は、高成分の上級品では、引き続き昨年比やや強含みで堅調に推移しています。北部カリフォルニア産では、現在2番刈の収穫が始まっています。当地は近隣に大型酪農家が多く、引き合いは堅調なようで、価格は昨年よりも強含みで推移しています。
チモシー	【米国産】現在コロンビアベースンでは、6月初旬から本格的な刈り取りが開始されると見込まれています。現時点では6月上旬の天候は安定しているようで、良好な作柄が期待されます。 産地価格については、値上がりは確実ではあるものの、その上げ幅については、スーダングラス等のPSWの禾本科価格を睨みながら形成されていくと思われます。
	【カナダ産】アルバータ州レスブリッジでは、現在天候は良好に推移しており、多くの農家は7月上旬の刈り取りを待っているところであります。このまま順調に行けば、新穀は8月下旬～9月上旬に入船すると思われます。 アルバータ州中部クレモナ地区も、今のところ天候に恵まれています。今年は土壌水分も十分で、良品な作柄を期待できる環境です。順調に行けば、最も早い生産農家では7月中旬から刈り取りを開始し、9月上旬～中旬ころには、新穀の入船が始まる見込みです。
スーダングラス	インペリアルバレーの6月1日現在の作付面積は約40,600エーカーと昨年同期比109%となっています。早播きは少なかったものの生産農家の作付け意欲は回復し、4月中旬から作付面積は伸長しています。このため、7月のピーク時には4万数千エーカーに達すると予想するサプライヤーが多くなっています。最も早い圃場では5月中旬から刈り取りが始まっており、6月初旬に収穫作業は本格化してくると見られています。 今年は繰り越し在庫もなく、生産農家の高値期待感から、産地価格は昨年に比べ大幅に上昇し、取引がスタートしているようです。
クレイングラス	クレインは全酪連の登録商標です。 17年産の1番刈は終了しており、2番刈が始まっています。今年は天候にも恵まれており良品が多く生産されているようですが、インペリアルバレーの5月15日時点の作付面積は前年比82%となっています。繰り越し在庫が少なく、韓国を中心に強い引き合いが続いていることから、産地価格は大きく上昇しています。今後は、上昇した価格に対する韓国勢の反応、チモシーやスーダンなどの価格の動向などが、産地価格に影響を及ぼしていくと考えられます。
ストロー類	主産地オレゴン州ウィラメットバレーの生育は例年に比べて1-2週間遅くなっていますが、収穫は7月上旬から開始される予定です。旧穀の産地在庫は枯渇しており、新穀においても、旺盛な需要が継続すると見込まれることから、産地価格は高止まりの状況です。このため、生産農家の生産意欲は回復し、収穫期の天候が安定すれば、ストローの生産量は十分なものになると考えられています。
オーツヘイ	【豪州産】引き続き、各サプライヤーの出荷量は安定しています。一方で、空コンテナが不足気味で推移していることに加え、船社のアライアンスの再編による航路変更で、接続線とのスケジュールが合わず、1～2週間の遅延が散見されます。このため、日本側では一時的な在庫の過不足が発生しやすい状況になっています。 5月には東豪州、南豪州では引き続き順調に降雨があり、新穀の播種もほぼ終了しております。しかしながら、西豪州の北部では今のところ降雨が少なく、土壌も乾燥しているため、本格的な播種には至っていないようです。



乳牛産地情報

平成 29 年 7 月 1 日現在

札幌支所 TEL 011-241-0765
釧路事務所 TEL 0154-52-1232
帯広事務所 TEL 0155-37-6051
道北事務所 TEL 01654-2-2368

価格状況 ▲……強含み ▲……やや強含み →……横這い ▲……やや弱含み ▼……弱含み

事務所	畜種	相場(万円)	価格状況	管内状況
札幌管内	育成牛(10-12月令)	55～65	→	札幌管内の6月中旬までの生乳生産量前年比は、函館管内月計91.5%、累計で91.6%、苫小牧管内月計で95.8%、累計で96.0%の実績となっております。 7月の初妊牛動向といたしまして、9～10月上旬分娩予定の牛が取引の中心となります。6月のこの地域の乳牛市場はやや弱含みで動きましたが、7月の相場は夏産みを過ぎた腹になりつつあることから、需要も増え横這いで動くものと思われます。F1や選別精液授精が購買の中心となり、牛なりや親の成績付き等で価格差が付く状況となっております。育成牛につきましては、引き続き道内各地の育成農家を中心に購買をおこなっており、高値を維持した状況が続くものと思われます。
	初妊牛	80～90	→	
	経産牛	45～50	→	
釧路管内	育成牛(10-12月令)	60～70	→	根釧管内の6月中旬までの生乳生産量前年比は、釧路管内月計で95.8%、累計で96.2%、中標津管内月計で98.8%、累計で99.2%の実績となっております。 6月の管内市場相場は5月と同様、牛の質により価格差が開き、夏産み中心の動きとなったため平均は下げ相場となりましたが、7月になると暑さの落ち着く9月下旬から10月分娩の腹中心の動きとなり道内外の大型牧場を中心とした導入が活発化と思われるため、初妊牛の相場動向は再び上げ基調の展開になるものと思われます。また、育成牛につきましては資源不足により初生牛の相場が46万～48万円(税込)の高値展開となっており今後の動向に注意が必要です。
	初妊牛	86～96	→	
	経産牛	55～65	→	
帯広管内	育成牛(10-12月令)	60～70	→	帯広管内の6月中旬までの生乳生産量前年比は、帯広管内月計で96.5%、累計で97.2%の実績となっております。 7月の初妊牛動向といたしまして、9～10月分娩予定の牛が取引の中心となります。6月のこの地域の乳牛市場が予想よりも弱含みで動いたことから、7月の初妊牛価格もやや弱含みで推移すると予想します。また、市場の開催回数が7月上旬の後は8月下旬となり間隔があくことから、初妊牛が庭先で購買しやすい状況となります。腹別ではF1腹がメインとなっており、選別精液授精も以前よりは購買しやすい状況となっています。育成牛につきましては、春産まれのものが依然として引き合いが強く、高値で取引されるものと思われます。
	初妊牛	80～90	↓	
	経産牛	55～65	↑	
道北管内	育成牛(10-12月令)	60～70	↑	道北管内の6月中旬までの生乳生産量前年比は、稚内管内月計で96.8%、累計で98.4%、北見管内では月計で98.0%、累計で98.9%の実績となっております。 7月の初妊牛動向といたしまして、9～10月分娩となり。6月の各市場の動向は、夏場分娩が購買の中心であったため、客足も減少し価格も弱含みで推移しましたが、その相場でも良品牛は依然として高値で推移していました。道内外の乳牛資源が減少していることから雌雄選別の需要が益々多くなっております。 経産牛についても需要が多く高値安定、これから10月以降の分娩については、大型牧場の需要が高まり徐々に高値になっていくことが予想されます。
	初妊牛	80～90	→	
	経産牛	50～60	→	
道内総括	育成牛(10-12月令)	60～70	→	道内の6月中旬までの生乳生産量前年比は97.1%、累計で97.7%の実績となっております。 7月の初妊牛動向といたしまして、9月以降の分娩腹が中心となります。6月は夏分産腹の取引が中心であったことから、相場に一服感もみられましたが、F1腹や雌雄選別腹については引き合いも強く底堅く推移しました。道内の生乳生産は、ほぼ道内全域で前年割れしていることから、9月分娩以降の初妊牛導入については、一定の道内需要も見込まれます。道内外における新規大型牧場の初妊牛導入も秋以降は活発化する事が予想され、初妊牛相場は再び反発するものと思われます。 放牧期間中ですので導入のご予定がございましたら、お早目の連絡をお願い致します。
	初妊牛	85～95	→	
	経産牛	55～65	↑	

今月の表紙

今月の表紙は、「第7回酪農いきいきフォトコンテスト」(第45回全国発表大会にて開催)で応募頂いた作品「ぼくもリードマン」(佐賀県 古川美津子氏撮影)です。



編集後記



- 暑い日が続きますが、体調管理に十分注意しこの夏を乗り切りたいですね。
今年のらくのうこどもギャラリーに全国から720点もの応募をいただきました。厳正な審査の結果、選ばれた優秀作品12点をご紹介します。ご応募いただきました皆さまに心から感謝申し上げますとともに、来年もより多くの応募をお待ちしています。
- 会報に関するご意見・ご要望等があれば、以下のアドレスにメールをいただければ幸いです。
shidoukikaku@zenrakuren.or.jp

平成29年7月10日発行(毎月1回10日発行)

全酪連会報 7月号 No.622

- 編集・発行人 大森 一幸
- 発行 全国酪農業協同組合連合会
〒108-0014 東京都港区芝四丁目17番5号
TEL 03-5931-8003 <http://www.zenrakuren.or.jp/>

今月の

らくのう

こどもギャラリー

入賞作品紹介



特選

パーラーでリラックス

美祢市立秋吉小学校(西日本)5年 土山 希望

今月の入賞作品は…全国酪農青年女性会議主催の「第44回らくのうこどもギャラリー」で全国720点の応募作品から「特選」に選ばれた美祢市立秋吉小学校(西日本)5年の土山 希望さんの作品です。

複雑な仕組みのパーラーや4頭の牛さん进行確かなデッサン力で描いています。真っ直ぐ前を向く牛さんや隣を横目で気にしている牛さんなどをよく観察して、表現にリアリティがあります。細部まで丁寧に描きこんだ完成度の高い傑作です。



主催 全国酪農青年女性会議



おかげさまで、50年

2017年

子牛育成用代用乳「カーフトップ」は

供給開始から50年を迎えます。

今後も、酪農家の皆様とともに日本の酪農を支える組織として

あり続けていきます。



全国酪農業協同組合連合会